

全国理科部門活動報告

鎌田 正裕

1. はじめに

全国理科部門の例年の活動は、日本理科教育学会全国大会の会期中に開催会場大学で会合を持ち、事前に募集した議題等についての報告と意見交換を主に行ってきた。昨年（2019年）度は令和元年9月22日に静岡大学静岡キャンパス（共通教育棟 B301 教室）で開催し、計 33 大学より 65 名が参加した。一昨年（2018年）度は平成 30 年 8 月 4 日に岩手大学教育学部で開催し、計 32 大学から 64 名が参加した。

本年度は新型コロナウイルスの感染拡大下にあつて、日本理科教育学会全国大会（岡山大学）がオンライン開催となったことに伴い、本部門の会合もオンラインでのリモート開催に変更した。開催日時は例年通り日本理科教育学会全国大会会期中とし、大会本体のプログラムの特に LIVE 配信の時間帯に重ならないよう配慮した上で、8 月 23 日（日）の 14:30～15:30 に遠隔ビデオ会議システム（Zoom）によるリモート会議の形で開催することにした。当初は会合の運営や進行についての危惧があつたが、コロナ禍での半年が過ぎ各大学の参加者が Zoom の操作についてある程度慣れてきたこともあり、会合開始時に画面共有した最小限のお願い（図1参照）だけで、別段、大きな混乱もなく会合は進行した。

令和2年度教大協全国理科部門会（14：30開始）

- ・表示氏名を「**大学名+参加者名**」（日本語表記）に設定願います。
- ・**Chat**で**ご所属と氏名をお知らせ**ください。参加者リストの作成に使用させていただきます。
- ・会議時間は、いつものように**40分以内の予定**ですが、回線の接続状況などで延びる可能性もあります。
- ・本会議の内容（映像・音声）は、**記録させていただきます**。記録されたものは、本年度の報告文書を作成する目的だけに使用し、その後、当方で消去いたします。
- ・会議中に、音声が聞こえないなどの**トラブルがありましたら**、**Chat**またはメール（masahirok@nifty.com）でお知らせください。
- ・会議進行へのご協力、よろしく願いたします。

図1 オンライン会議でのお願い（Zoom）

2. 本年度部門会議の概要

会議への出席が確認された会員校大学は次の 28 校で、計 40 名以上（附属学校教員 1 名を含む）が参加した。

北海道教育大学函館校・山形大学・福島大学・筑波大学・宇都宮大学・埼玉大学・東京大学（教育学部附属中等教育学校）・東京学芸大学・横浜国立大学・金沢大学・信州大学・愛知教育大学・三重大学・滋賀大学・京都教育大学・神戸大学・奈良教育大学・和歌山大学・島根大学・岡山大学・香川大学・愛媛大学・福岡教育大学・熊本大学・大分大学・宮崎大学・鹿児島大学・琉球大学（計 28 会員校大学）

会議は、1. 令和元年度会計報告に続き、2. 各大学の近況報告を行った。2 では令和2年8月23日現在の「コロナ禍」での各会員大学の教員養成系学部等の様子についての現状が報告され、授業と教育実習の実施についての現場の様子を共有した。会議の記録メモから採取されたプロトコルの一部（抜粋）を以下に掲載する。感染が拡大した地域と拡大せずに収まっている地域とでの「温度差」はかなりのものであることがあらためて明らかになった。

・前期は対面授業なし。6 月以降、申請が認められれば一部実験などは対面可に。（東北・Y 大）

- ・前期は全てオンライン。後期は実験を中心に希望をとって対面の予定。だが、三密を避ける広い教室には限りがあり、難航。(関東・T大)
- ・6月から緩和、少人数の実験などは対面。(北陸・K大)
- ・連合大学院(博士課程)の授業はオンラインにしたことでやりやすくなった。当初は休校、いきなりオンラインにということで焦った。(前期予定の理科の実験は、来年度に延期)(近畿S大)
- ・大人数のものは遠隔。6月から許可制でかなり認められる。遠隔ゼミはじめ少人数の授業は申請すればほぼ対面が認められる。(近畿・N大)
- ・基本はオンライン。少人数、屋外ならば、対面は比較的認められる。(近畿・W大)
- ・後期は、一部条件によって対面可(許可かなり厳しい)で基本は遠隔。秋から始まるこの秋の大学院等の入試は全て遠隔での実施が決定。(近畿・K大)。
- ・感染対策施し、全国に先駆け6月2日から対面授業。日常が戻った。(近畿・K大)
- ・原則全てオンライン。卒研と実験実習は対面が認められる。(中国・S大)
- ・教職大学院の実習前期は取りやめ。1日120分×4コマの授業は、課題に追われて学生は大変。(中国・O大)
- ・6月11日から一部対面授業実施。6月18日から教職大学院実習通常通り。9月は学部生実習実施の予定(附属校)。(他学部では実習断られ対応に苦慮も(協力校))(四国・E大)
- ・6月から許可制で対面可能もほとんど遠隔(8月は教職対応でごく一部の学生が実験をしに来ている)。後期は許可制で対面認められ易い方向。(九州・F大)
- ・前期は4月28日からオンラインで授業開始。実験実習は、学部事情で三密を避ける対策をとれば実施可(許可制でなく)だが、「2mあける」は無理で不可能に。後期授業は対面が決定。実習は1W短縮(大学授業で補填)。実習前の2W(お盆過ぎ)は県外へ出ないよう指示。(九州・K大)

加えて、会議の最後には、21CoDOMoS(東京学芸大学から配信、公開されている小中学校の授業の動画)について、鎌田部門代表から紹介があり、コロナ禍での各大学の教育法他の遠隔授業等での活用を呼びかける提案があった。

(<http://www.u-gakugei.ac.jp/~jisedai/21CoDOMoS/index.html>)

The image shows a screenshot of the 21CoDOMoS website. The main content area is titled "動画で教え方を..." (Learn from videos...). It lists three main actions: "学ぶ" (Learn), "考える" (Think), and "議論する" (Discuss). Below this, there are sections for "こんな方にご利用いただけます" (Who can use this) and "コンピテンシーを育成する授業の実践例を配信" (Distributing practical examples of lessons for developing competencies). A table lists various lesson videos with columns for "授業名" (Lesson Name), "授業時間" (Lesson Time), and "授業内容" (Lesson Content). At the bottom, there is a QR code and a link to the website: <http://www.u-gakugei.ac.jp/~jisedai/21CoDOMoS/>. The footer includes the logo of the University of Gakugei and the Center for Educational Research and Development (NISE).

3. 終わりに

それぞれの大学で苦労している様子、また大学によって取り組みが大きく異なる点は共有できた。新型コロナのように、先の見通しが立たない状況下において、特に理科のように実験観察を伴う授業で、他大学がどのような取り組みをしているかを知ることが大切で、Zoom による遠隔とは言え、参加した大学(教員)にとっては貴重な情報交換の場となった。次回(来年度)の部門会議は、令和3年9月に群馬大学共同教育学部で開催の予定である。対面でできるかは、その時の感染状況次第であるが、遠隔になったとしても、このような機会は大切にしたい。

(東京学芸大学教育学部 教授)